

雑一講

ぞうにこう

設立年

明治にまで遡るため、詳しい記録は残っていない。

設立経緯

雑司が谷二丁目町会原型である古木田会により作られたとされる万人講（詳細不明）から派生した、という説があるが、他にも諸説あるようで、当時の事情を知っている人がもういないため、詳しいことは不明である。

講の名前の由来

詳細不明



特色

- 町会との線引きはなく、町会と一心同体。
- 町会の人も誰でも参加自由！
- 万燈の花づくりは女性人、組み立ては男性陣が行う。
- 一八日は、縄を振る小中学生だけで二・三十人、練歩き全体では三百人いる。
- 炊き出しメニューは、炊き込みご飯、おにぎり、おでん、味噌田楽。
- 万燈は軽量化しているので、二・三人いればあげられる。

雑司ヶ谷霊園



16日の町内周リルート

以前、万燈の準備から当日の練り歩きまで参加させていただきました。その時いただいたおにぎりがとてもおいしかったです!!

大門宮元講

だいもんみやもとこう

設立年 昭和一五（一九四〇）年頃

設立経緯

詳細は不明。一九四〇年に町会が制定された頃から前身である雑三宮元講が御会式に参加していた事が確認される。（この地域の一部住民は江戸時代から御会式に参加していたと考えられる。）

講の名前の由来

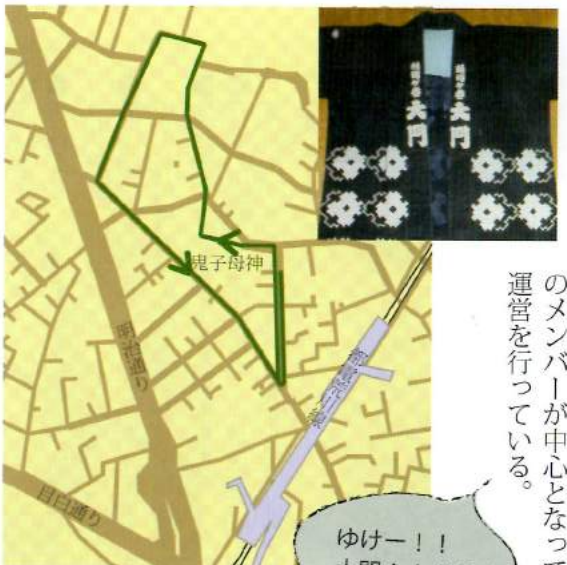
元からある雑三宮元講から派生して三十五年前に若者たちで大門若睦をつくる。その後、約十五年前に大門宮元講となる。大門宮元講の宮とは鬼子母神のこと。鬼子母神の元にある講という意味。

関口さん
みにいきまーす!



特色

- 大勢で叩いているが、太鼓（源太）のリズムが揃っていて、多くの人が聴きやすいと褒められる。
- どの年代（二〇代後半〜三〇代前半以外）も昔から地元に住み、講に参加してきたメンバーのため、横と縦のつながりが強い。
- 雑司ヶ谷の地元講の中でも、「△△講」という名称は三つしかなく、大門宮元講は雑司が谷三丁目町会のメンバーが中心となって運営を行っている。



16日の町内周リルート

ゆけー！！
大門！！（△△）

高田南睦

たかだみなみむつみ

設立年 昭和五六(一九八二)年

設立経緯

元々、高田南一・二・三丁目で各万燈を持つていたが、それがなくなり何十年かは各々やりたい講へ出向いていた。
その後、平良秀夫さん(初代講元)が高田南町にも講を作ろうと、一人で講を設立。はじめは資金等も全て一人で賄っていたが、まちの皆で負担しようということになり、現在の講ができる。

講の名前の由来

高田南一・二・三丁目を合わせた。
初めの十年程「南睦」の時期があり、その後、運営のため会費制にするのに伴い「高田南睦会」になる。
しかし、「睦」も「会」も同義語であるため、八年前(二〇〇五年)に「高田南睦」と改めた。



燈籠の実物
見てみたいです!

特色

- 人数が多い。十八日の練供養には大人三百人、子供百人程が参加する。
- 高田南全域のため、十六日の町内周りのルートが長い。(高田馬場から早稲田まで)
- 地元のつながりを大切にしている。
- 万燈の中の燈籠が五角形・五重塔は高田南睦だけで、七十二度の角度を完成させるのに苦労した。



16日の町内周りルート

高田若睦

たかだわかむつみ

設立年 昭和三六(一九六二)年

設立経緯

元々、豊川町の方で太鼓をやっていた初代メンバーが、自分たちの町でもやろうと、お金を出し合い睦を結成。

講の名前の由来

高田の町十若いから！
という理由で、「高田若睦」になる。



特色

- 町会単位でない講は、高田若睦が最初。(昭和三六年以前から)そのため、「睦」を定着させたのは高田若睦と言っても過言ではない。
- 万燈が他の講よりも大きい。また形も特徴的で、燈籠を中心軸に対し低い位置に固定することで重心を低くし、持ちやすくなった。
- 半纏と手拭いの生地全体に柄が入っている。
- 三十代の若手も頑張ってくれている。



16日の町内周りルート

いろいろな工夫をされて
いらっしゃるんですね

東池=東京池袋だとは
知らなかった!

東池母神会

とういけばぼじんかい

設立年 平成二(一九九〇)年

設立経緯

東池袋はほかの講に比べて雑司ヶ谷から遠く、地元講がなかったため、現会長と前会長が東池袋に新たに講を作ることになった。

講の名前の由来

東池母神とは、「東京池袋鬼子母神」の略である。かつて池袋にあった母人講から名を前をもらっている。

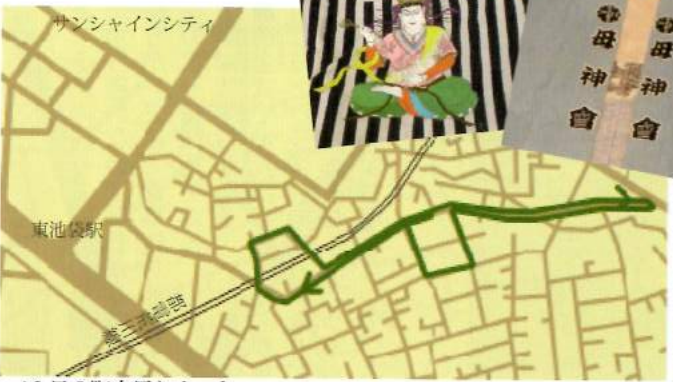
特色

■以前は太鼓が非常に上手で、会長の娘さんとその友人たちが女性だけで叩く太鼓が花形だった。当時行われた御会式コンテストでは優勝した経験がある。

■現在、纏を振るものが非常に多い。

■逆に、万燈の担ぎ手不足により、リアカーで運んでいる。

■新たな参加者たちは、実際に御会式を見て興味を持って入ってくる。若い人たちは親子連れでの参加がよく見られ、中にはベビーカーを引いて参加する人もいる。



16日の町内周りルート



千登世若睦

ちとせわかむつみ

設立年 昭和四二(一九六七)年

設立経緯

元からあった千登世睦がなくなり、その後の東京オリンピックの講の衰退時期にお祭り好きが集まって設立させる。設立当時のメンバーは五、六人で、法明寺檀家を世話役として始まった。

講の名前の由来

地名から名づける。

特色

■柳二十本につき二十二〜三個の花をつけるため、折る紙の枚数はおよそ六千枚程。これらの花を開く作業は皆で行っている。

■昔は雑司ヶ谷では両面太鼓が主流だった。その中で団扇太鼓を団体で叩き始めたのは千登世若睦である。

■炊き出しのメニューは焼き鳥やお米屋さんのおにぎり、松茸ご飯、おでんなど。女性だけではなく、男女が集まって炊き出しをしている。

6千枚!?
そんなに使ってるから
あんなに綺麗なんですね!



16日の町内周りルート

